

# いわて道徳教育ガイドブック

## 増補版

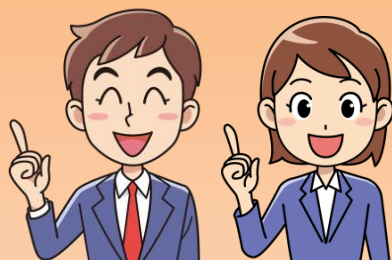


### MORAL EDUCATION GUIDE BOOK

「特別の教科 道徳」(道徳科)を要とした道徳教育の充実を目指して

#### 教育活動全体を通じて行う道徳教育

- ☆道徳教育推進教師を中心に、  
全教職員が協力して進めるには？
- ☆重点を置く道徳的価値を共有し、  
意図的、計画的に全教職員で進めるには？



各学校の具体的な取組を  
紹介しながら、実践のポイント  
を解説していきます！

令和6年3月

岩手県教育委員会

# 目

# 次

## はじめに

<b>I 道徳教育推進教師を中心に、 全教職員が協力して進める道徳教育</b> .....	<b>2</b>
1 道徳教育の全体計画 .....	2
2 道徳教育推進教師を中心とした進め方 .....	3
3 研究指定校の実践(令和3年度 奥州市立佐倉河小学校) .....	4
<b>II 重点を置く道徳的価値を共有し、 意図的、計画的に全教職員で進める道徳教育の実際</b> .....	<b>6</b>
1 家庭や地域、異校種と連携した道徳教育の推進 (普代村立普代小学校) .....	6
2 「いわての復興教育」を基盤とした道徳教育の推進 (宮古市立田老第一中学校) .....	8
3 人権を尊重する態度を育成する道徳教育の推進 (花巻市立花巻北中学校) .....	10
<b>III 道徳科の授業の実際</b> .....	<b>12</b>
1 ICT を効果的に活用した道徳科の授業 (紫波町立紫波東小学校) .....	12
2 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導 (大船渡市立大船渡北小学校) .....	14
<b>IV 道徳科で活用できる読み物資料</b> .....	<b>16</b>

# はじめに

変化の激しい時代の中で、人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくことが一層重要になることを背景に、道徳の時間が「特別の教科 道徳」（道徳科）として、平成30年度から小学校、平成31年度（令和元年度）から中学校において全面実施され、小学校で6年、中学校で5年が経過しました。コロナ禍を経た現在も、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、豊かな心を育む道徳教育の一層の充実が引き続き求められています。

県教育委員会においても、「いわて県民計画（2019～2028）」と「岩手県教育振興計画」に基づき、「豊かな心の育成」を重要な柱と位置付けて、岩手県道徳教育推進事業を展開しています。その一環として、令和2年3月に『いわて道徳教育ガイドブック』を発行し、各種研修会等で活用することにより、教育活動全体で行う道徳教育を推進する上でのプロセスや道徳科の授業づくりのポイント、そして評価の考え方や進め方等についての理解促進を図ってきました。また、研究指定校の成果を道徳教育啓発リーフレットとして普及するとともに、各学校の特色を生かした実践事例の情報収集等にも努めてきたところです。

この度、そのような事例を、教育活動全体を通じて行う道徳教育の具体的な視点及び実践として整理した『いわて道徳教育ガイドブック増補版』を作成しました。児童生徒や地域社会の実態を踏まえ、学校の課題を明らかにし、道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にするなど、学校の特色を生かしながら、創意工夫して道徳教育を進めていく際の参考となる実践事例を掲載しています。

各学校においては、「特別の教科 道徳」（道徳科）を要として教育活動全体で行う道徳教育の一層の充実に向け、教職員全員の共通理解を図るツールとして、『いわて道徳教育ガイドブック』を「理論編」、本『増補版』を「実践編」としてあわせて活用していただくことを心から期待します。

令和6年3月 岩手県教育委員会

# I 道徳教育推進教師を中心に、 全教職員が協力して進める道徳教育

## I 道徳教育の全体計画

道徳教育全体計画・全体計画の別葉 ⇨ 『いわて道徳教育ガイドブック』P4～P6

### 充実を図るためのポイント

- 道徳教育の方針がわかりやすく、明確であること
- 全体計画を定期的に見直すこと
- 全体計画の別葉を活用されるものにしていくこと



## 方針を共有し、重点内容項目を意識した意図的な働きかけを!

(例) 重点目標 「思いやりと自他の生命を大切にする心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる。」

かけがえのない生命を大切にしましょう。  
**生命の尊さ**

森林を保護することは、なぜ必要なのでしょう?  
**自然愛護**

自分の生活習慣で見直すところなどはありませんか?  
**節度・節制**

困難を乗り越え、夢や希望をもって生きていきましょう。  
**よりよく生きる喜び**

★全体計画により方針を共有できれば、様々な場面で、全教職員が意図的に、関連のある内容項目と結び付けた働きかけが可能になります。

★全体計画の別葉を活用し、道徳科の授業以外における指導内容や時期が明確になれば、指導の機会を意識した実践が可能になります。

(例) 重点内容項目「親切、思いやり」

【道徳科】  
「相手の気持ちになって考える」とは、どういうことでしょうか?

【図画工作】  
作った人の思いも理解しながら、感想を伝え合いましょう。



【宿泊体験学習】  
大変な思いをしている人のことを考えてできた行動はありましたか?

【帰りの会】  
今日の生活で「思いやり」を感じた場面を紹介しましょう。

例えば・・・全教職員の思いのこもった「別葉」にするために


★各教科等の授業を行う中で、目標や内容等が重点内容項目と関わっていると実感したものを、付箋紙などに書き留めておく。

⇒年度末に全教職員で協議して元の別葉に新たに位置付けたり、今までの位置付けを見直したりする。

⇒全教職員の実感を伴った生きて働く別葉となることが期待できる。



## 2 道徳教育推進教師を中心とした進め方

道徳教育の推進(指導体制)  『いわて道徳教育ガイドブック』P2

### 充実を図るためのポイント

- 道徳教育推進教師の役割を明確にすること
- 全教職員が道徳教育に協力して取り組む校内体制を整えること
- 道徳教育推進教師としての活動の時期や内容を計画しておくこと



### 全教職員の力を合わせてわかりやすい推進を!(参画・分担・協力)

- ① 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ② 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ③ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ④ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ⑤ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ⑥ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ⑦ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ⑧ 道徳教育における評価に関すること など

小・中学校学習指導要領解説 総則編 第6節1(1)



学習指導要領には役割が書いているけど、どこからどうすればよいか……

★道徳教育全体を見渡すコーディネーターとして、学校の実態に応じて、取り組むべきことを明確化しましょう。道徳教育推進教師1人ではなく、全教職員で分担して進めます。

例えば… 上記①～⑧の具体的な行動をイメージしてみましょう

- 重点目標を全教職員が共通認識できる機会を設定する。
- 重点内容項目を、機会を捉えて共有する。
- 別業を見直す機会を設定する。
- 道徳教育の研修会、道徳科の授業研究会を企画する。
- 互見授業を設定する。
- ティーム・ティーチング授業を企画する。
- 教材、板書写真、ワークシートのデータ等を保存し、活用する。
- 校内で紹介したい資料を収集し、紹介する。
- 道徳便りを発行する。(学校便り等へ掲載する。)
- 地域や保護者への授業公開を企画する。
- 学校評価の項目を見直す。

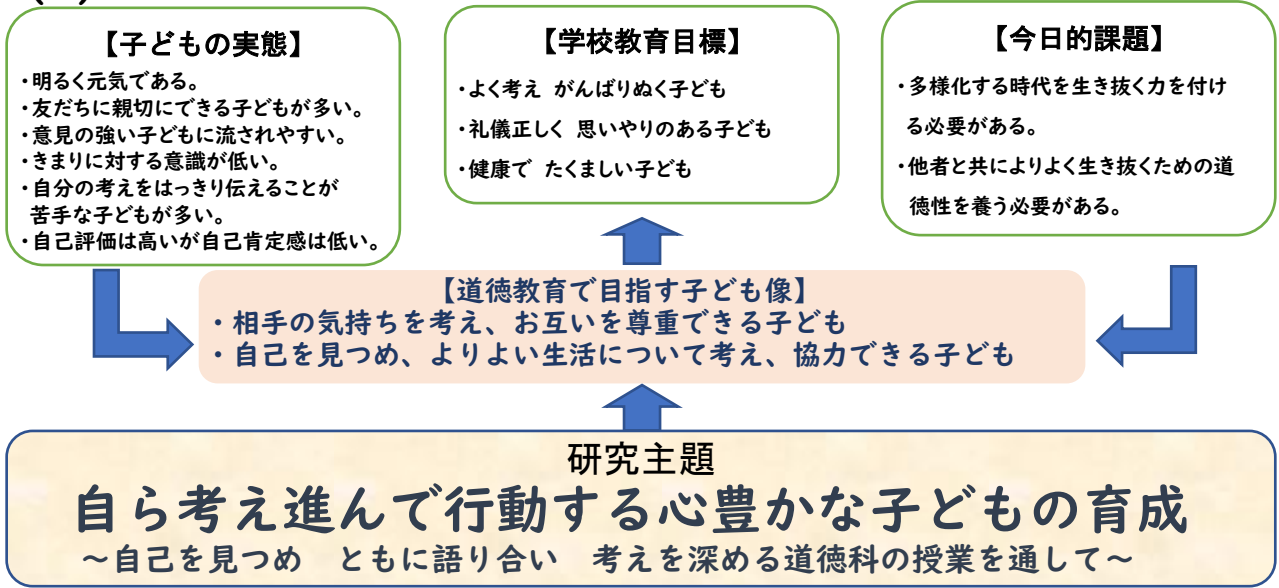


取り組むべきことがイメージできてきました。先生方みんなの力を借りて進められそうです。

★学校の実態から、先に取り組んだ方がよいことや、年度で焦点化すべきことなど見えてくるはず。それに応じた行動計画を立てるなどすれば、動きやすくなります。

### 3 研究指定校の実践(令和3年度 奥州市立佐倉河小学校)

#### (1) 研究の全体構想



<b>【本校重点項目】</b>	B：主として人との関わりに関すること【友情・信頼 相互理解・寛容】	
	C：主として集団や社会との関わりに関すること【集団生活の充実】	
自己を見つめ ともに語り合い 考えを深める道徳科の授業づくりの3つの手立て		
自己を見つめるために	ともに語り合うために	考えを深めるために
<b>【手立て1】</b> 自我関与の工夫	<b>【手立て2】</b> 多面的・多角的に考える場の在り方	<b>【手立て3】</b> 今までの自分を振り返る工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ネームプレート</li> <li>・心情スケール</li> <li>・心のバロメーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の工夫</li> <li>・中断読み</li> <li>・ペアトーク</li> <li>・心情スケール</li> <li>・ネームプレート</li> <li>・ホワイトボード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋の活用</li> <li>・発問の工夫</li> <li>・グルーブトーク</li> <li>・心情円</li> <li>・意図的指名</li> <li>・役割演技</li> </ul>
<b>道徳の授業を支える土台</b>		
①年間指導計画 ②重点項目を意識した別葉 ③明確な指導観に基づく指導案の作成 ④子ども一人一人の成長を見守り、成長を認め励ます評価 ⑤安心できる学級経営 ⑥教室環境 ⑦学校全体で取り組むポジティブな行動支援(KSP「きらっと 佐小 プロジェクト」)		

#### (2) 重点内容項目を意識した別葉

重点テーマ 年間構想 【6年 C(14) 勤労、公共の精神 (16) よりよい学校生活・集団生活の充実】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
<b>学校行事</b>	始業式・入学式 身体測定 交通安全教室 卒業生を送る会 授業参観日 運動会	児童会総会 運動会 校地内清掃	プール開き プール検定 検定水泳記録会 運動会 運動会 運動会	校外交流 1学期終業式 地区水泳記録会	2学期始業式 身体測定 夏休み作品展 校内水泳記録会 読書教室(4～6年)	地区総合学習 学習発表会 運動会 地区児童上級生会 読書教室 自治会教室(4～6年)	なわとび大会 学習発表会 作品展示会 水泳地域文化発表会	伝言まわり 幼小交流 マラソン大会 修学旅行 学校を卒業しに臨む日	2学期終業式	3学期始業式 身体測定	児童会総会 授業参観日 6年生を送る会	運動会 修学旅行	卒業式	
<b>各教科</b>	国語 「つないでつなぐ」 ・言葉は相手のつながりを作る働きがあることに気づかせ、友達のことを受け入れながら話をする。	体育 「表現活動」 ・友達と協力して取り組んだり、助	国語 「私のお気に入りの場所」 ・お気に入りの場所	音楽 「ボイスアンサンブル」 ・友達と音を重ね				家庭 「調理実習の手順をグループで話し合い、計画を実行する」	体育 「ゴールゲーム」 ・グループ内での守りの動きを楽しくゲームをする。	社会 「手とて貴かな暮らしをめざして」	算数 「算数の学習をしよう」 ・6年間の算数の学習を振り返るとともに、自分の苦手なところを友達に聞いたり、教えあったりする。	家庭 「月に生きる地域での生活」 ・家庭生活は地域の人のかけがえのないものだと気づかせること、自分の得意なところを友達に聞いたり、教えあったりする。	音楽 「音楽で思いをつたえよう」 ・友達と話し合い、協力して工夫する。	
<b>道徳科の時間</b>	精公勤 神共勞 の 団生いよ 生活学 活学校よ	第1時(6月) 教材「うちらネコのボランティア」(東書) ・働くことや社会に奉仕することの意義を知り、進んで人のために必要な仕事をしようとする心構えを育てる。						第2時(11月) 教材「せんいびの心を受け継いで」(東書) ・最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着をもち、進んで立派な学校を作ろうとする態度を育てる。		第3時(2月) 教材「小さな道徳のつらみ」(東書) ・身近な集団の中で、自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする心構えを育てる。		とくに公事にかならず勤務を優先し、仕事を優先するのではなく、勤務にこころをこめて取り組むこと、これこそが働くことの意義である。		
<b>総合的な学習の時間・特別活動・行事・日常生活</b>	1年生を迎える会 ・学年・学年で協力して1年生を迎える。	運動会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む。			校内水泳記録会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む、学校で励ましいながら、記録更新をめざす。		学習発表会 ・友達と協力して練習したり、道具の準備をしたりする。	マラソン大会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む、互いに切磋琢磨し、記録更新をめざす。	学期末清掃		6年生を送る会 ・お世話になった6年生へ感謝を伝えるためにはできることは何かを考える。			
	KSP:あいさつ ・明るくあいさつをする。	KSP:やるべきこと ・廊下の右側を静かに歩く。			KSP:やるべきこと ・チャイム席を守る。		KSP:やるべきこと ・ハンカチを持ち歩き、手洗いうがいをしつかりする。		KSP:やるべきこと ・廊下の右側を静かに歩く。					

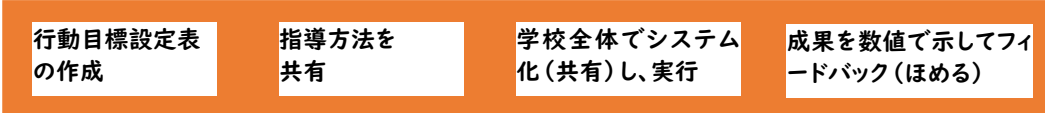
「重点内容項目」と「学校全体で取り組むポジティブな行動支援(KSPきらっと佐小プロジェクト)」を意図的に位置付けた別葉により、重点内容項目を意識して教育活動全体を通じた道徳教育を充実させています。

### (3) 教室掲示(道徳科の足跡)



学習したことを想起して、日常生活でよりよい行動に生かそうとする作用を生み出しています。

### (4) 学校全体で取り組むポジティブな行動支援(KSP) (学校全体で推進する道徳教育の取組の一つ)



#### 1 行動目標設定表の作成

- ① 「3つの大切」を決定
- ② 「指導の場面」の決定と「指導可能」な目標に具体化

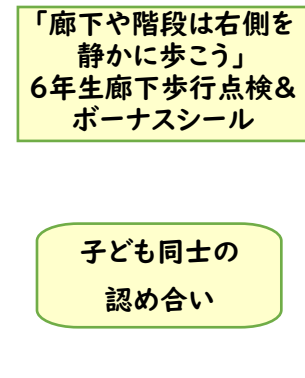
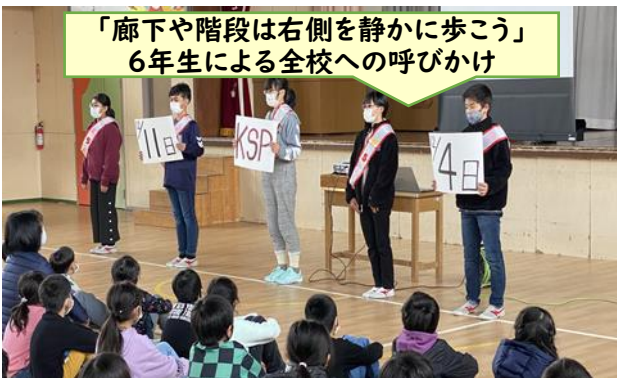
【佐倉河小学校の行動目標設定表】  
きらっと(K) 佐小(S) プロジェクト(P)

	きまりを守ろう	自分も友だちも大切にしよう	すてきな言葉を使おう
授業中	<input type="checkbox"/> あいさつや返事ははっきり言おう。 <input type="checkbox"/> 授業に必要なものを準備しよう。	<input type="checkbox"/> 友だちの話に反応しながら、最後まで聞こう。	<input type="checkbox"/> 「です」「ます」をつけてはっきり話そう。 <input type="checkbox"/> 「いいね」「なるほど」「どうぞ」「ありがとう」の言葉を使おう。
休み時間	<input type="checkbox"/> チャイムが鳴ったら遊びをやめよう。 <input type="checkbox"/> 廊下や階段は右側を静かに歩こう。	<input type="checkbox"/> 友だちをさそって遊びに行こう。	<input type="checkbox"/> 廊下ですれ違う人に「こんにちは」と言おう。 <input type="checkbox"/> 「遊ぼう」「大丈夫」「いいよ」「ごめんね」の言葉を使おう。
そうじ	<input type="checkbox"/> 名札と赤白帽子をつけて掃除に行こう。 <input type="checkbox"/> 自分の掃除場所を1時30分まできれいにしよう。	<input type="checkbox"/> 自分の担当が終わったら、終わっていない人を手伝おう。 <input type="checkbox"/> 「さん」をつけて名前を呼ぼう。	<input type="checkbox"/> 反省会では、掃除を頑張った人を紹介しよう。 <input type="checkbox"/> 「おつかれさま」「手伝おうか」「がんばってね」「教えてちょうだい」の言葉を使おう。

- 2 「3つの大切」を学校全体でシステム化(共有)し、実行
- 3 成果を数値で示してフィードバック(ほめる・認める)

- ① 記録方法を決定し、指導を始める前に記録を行う。
- ② 具体的行動目標の記録を取って、評価を行う。
- ③ 具体的行動目標に取り組んだ成果を、フィードバックする。  
具体的行動目標の成果をグラフ化し、子どもたちに自分たちの成長が目に見えて分かるようにする。

#### 4 KSP の実際



子ども同士の  
認め合い

「廊下や階段は右側を静かに歩こう」



全校でシール  
3436枚ゲット!

児童会が中心となって行った学校全体で推進する道徳教育の取組の一つです。

## Ⅱ 重点を置く道徳的価値を共有し、 意図的、計画的に全教職員で進める道徳教育の実際 Ⅰ 普代村立普代小学校 家庭や地域、異校種と連携した道徳教育の推進

### 推進のためのポイント

研究主題 自ら考え、判断し、これからの時代を他者と共によりよく生きる児童の育成  
～道徳科を要とした、情報モラルに関する指導の充実を通して～

普代村立普代小学校では、児童に「友達のよさを認め、協力する力」「相手を傷つけないためにルールを守る力」「誰かに頼らず、自分で物事の善悪を判断する力」を育みたいと考えました。また、インターネットのトラブル事案がある実態を踏まえ、情報モラルについて考える力も育みたいと考え、道徳教育を推進しました。

### 取組Ⅰ 教育活動全体で行う道徳教育の指導計画の改善

#### (1) 全体計画及び別葉の見直し

児童の実態や学校教育目標、目指す子ども像等から情報モラルにも関わる重点内容項目を設定し、全体計画や別葉を見直すなど、教育活動全体で道徳教育を推進しました。

#### 【重点内容項目】

- 「親切、思いやり」
- 「規則の尊重」
- 「善悪の判断、自律、自由と責任」

●児童研会 Cよりよい学校生活、集団生活の充実	●小中合同あいさつ運動 Cよりよい学校生活、集団生活の充実	●普代つ子 Cよりよい学校生活、集団生活の充実
13 森のみんなど C親切、公共の精神	14 びよちゃんどひまわり D生命の尊さ 15 行ってみたいな C国際理解、国際親善 16 水の広場 A善悪の判断、自律、自由と責任 17 竹馬と一りん車 B友情、信頼	18 まいごのすず B親切、思いやり 19 きらきらみずき A個性の伸長 20 おらもい、ゆになる A希望と勇気、努力と強い意志 21 たからものなかに D生命の尊さ
いらんま D自然愛護 うれしくな B親切、思い	あめノ空に D自然愛護 うれしくな B親切、思い	たからものなかに A個性の伸長 B親切、思いやり C公正、公平、社会正義 D自然愛護
14 びよちゃんどひまわり D生命の尊さ 15 行ってみたいな C国際理解、国際親善 16 水の広場 A善悪の判断、自律、自由と責任 17 竹馬と一りん車 B友情、信頼	18 まいごのすず B親切、思いやり 19 きらきらみずき A個性の伸長 20 おらもい、ゆになる A希望と勇気、努力と強い意志 21 たからものなかに D生命の尊さ	22 オレンジ色の木のみ C規則の尊重 23 青いアルバム B礼儀 24 ごめんね、みなみ D自然愛護 25 つくえふき C公正、公平、社会正義

#### (2) 情報モラル教育の指導計画との関連付け

道徳教育と情報モラル教育の年間指導計画を照らし合わせ、双方で意図的・計画的に指導を行い、効果を高めることができるよう、内容や教材の配列を見直しました。

5・6年生	⇒ 情報セキュリティについての理解
●他人や社会への影響を考えて行動する	●【発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響について理解することができる】
●【5年生】	● 7 「いじめをなくすために」【公正、公正、社会正義】
●【6年生】	● 7 「移動教室の夜」【善悪の判断】
	● 8 「温かい行為が生まれるとき」【思いやり】
	● 18 「おばあちゃんの指定席」【思いやり】
	● 30 「鬼の銀蔵」【善悪の判断】



## 取組2

# 家庭や地域、幼・中と連携した道徳教育の推進

### (1) 家庭との連携

授業参観において、全学年、情報モラルと関連した道徳科の授業を実施し、参観後に、情報モラルについての講演会を実施しました。

講演会后にアンケートを実施し、情報モラルへの関心を高めるようにしました。



### (2) こども園との連携

こども園の年長児との交流活動の際、重点内容項目である「規則の尊重」をテーマとし、時間や約束を守ることの大切さを活動の中で取り入れたり、紙芝居を通して話題にしたりしました。



### (3) 中学校との連携

中学校の先生方に道徳科の授業を参観いただき、授業づくりの実際について共に学ぶ機会を設けました。小学校で大切にしている道徳教育の方向性や取組について周知し、共有を図りました。



### (4) 積極的な情報発信【家庭や地域を対象に】

学校で道徳教育を推進する上で大切にしていることや、学校で行っている道徳科の授業について家庭や地域の方々に知っていただき、連携して児童の豊かな心を育むために、積極的に情報を掲載した通信を発行し、配布しました。

#### 今日のきらっと☆

- 道徳では、気持ちの良い挨拶について考えました。言葉で言うだけではなく、気持ちのこもった表情や礼もすると、相手に気持ちが伝わることを話し合いました。
- また、授業の次の日には、全校朝会で、校長先生から「挨拶は、相手の存在を認めてあげるもの」という話を聴きました。伝えても返ってこない挨拶は、相手を無視していることだから、伝えたらちゃんと返してあげることが大切だと考えることができました。
- 他の先生達からも「1年生の挨拶、良いね。」と褒められています。進んで挨拶をしたり、授業の初めと終わりの挨拶を気持ちをこめてしたりと、挨拶を頑張っている5人にきらっと☆

今日のきらっと☆  
道徳では、気持ちの良い挨拶について考えました。言葉で言うだけではなく、気持ちのこもった表情や礼もすると、相手に気持ちが伝わることを話し合いました。また、授業の次の日には、全校朝会で、校長先生から「挨拶は、相手の存在を認めてあげるもの」という話を聴きました。伝えても返ってこない挨拶は、相手を無視していることだから、伝えたらちゃんと返してあげることが大切だと考えることができました。他の先生達からも「1年生の挨拶、良いね。」と褒められています。進んで挨拶をしたり、授業の初めと終わりの挨拶を気持ちをこめてしたりと、挨拶を頑張っている5人にきらっと☆

優しい行動（「親切・思いやり」）、挨拶（「規則の尊重」）について、全校朝会において校長の講話として実施し、学校報にて全校道徳の内容や講話での児童の様子を紹介しました。

## 全校道徳 心の成長を目指して

9月6日（火）の全校朝会の場で、全校児童に向けて、下記にある「一粒のぶどう」というお話の朗読をしました。

少し昔、ある不治の病の女の子の話です。  
一歳の時から入院を繰り返して、五歳になりました。  
様々な治療の甲斐もなく、ついにターミナルケアに入りました。  
もはや術もなく、安らかに死を迎えさせる終末看護、それがターミナルケアです。  
冬になり、お医者さんがその子のお父さんに言いました。  
「もう、なんでも好きなものを食べさせてやってください。  
お父さんはその子に、何が食べたいか、ききました。  
「お父さん、ぶどうが食べたいよ」と、女の子が小さな声で言いました。  
季節は冬、ぶどうはどこにも売っていません。  
でも、この子の最後の小さな望みを叶えてやりたい。



これは、作り話ではなく本当にあったお話になります。聖路加病院という病院に入院していた女の子とその父親、そして、高島屋というデパートの店員さんのお話です。高島屋は、この出来事をきっかけに「一粒のぶどう基金」という、従業員の様々な社会貢献活動への支援を行っているそうです。子どもたちには、教室に戻ってから担任と一緒に、女の子のお父さん、そして、デパートの店員さんの気持ちや行動について考えてもらいました。

## II 重点を置く道徳的価値を共有し、

# 意図的、計画的に全教職員で進める道徳教育の実際 2 宮古市立田老第一中学校

## 「いわての復興教育」を基盤とした道徳教育の推進

### 推進のためのポイント

研究主題 **夢や希望を持ち、ふるさと田老の発展に貢献する人づくり**

復興教育の推進は田老一中の使命 ～「学び、伝え、活かす」取組を発展させながら～

宮古市立田老第一中学校では、復興教育の要を道徳科と捉え、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を重点内容項目として、各指導計画の改善や授業実践、地域や関連団体と連携した体験活動の充実に取り組んでいます。

### 取組1

## 教育活動全体で行う、復興教育に関する指導計画の改善と充実

### (1) 道徳教育全体計画及び別葉、復興教育年間指導計画の見直し

重点内容項目を、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」と設定し、道徳科を要として、復興教育に関する各指導計画の見直しを行いました。学年間の「縦」のつながりと、教育活動間の「横」のつながりを見直しの視点とし、3年間を通して「ふるさと田老の発展に貢献する人づくり」を推進できるようにしました。

令和5年度 道徳教育全体計画

学校の教育目標

- 真理を求め創造する生徒（知）
- 心豊かな責任感の強い生徒（徳）
- 生命を尊び健康な生徒（体）

道徳教育の重点目標

A 自立心や自律性を高め、規律ある生活を送ろうとする態度を養う。自律、尊厳、思い寛量

B 他者への敬意や立場への配慮を大切に人間関係を築めようとする態度を養う。思いやり、礼儀、相互理解

C 集団の一員であることを自覚し、社会参加の意識を高め、郷土や社会の発展に寄与しようとする態度を養う。集団生活の充実、社会参加、郷土を愛する態度

D 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して成長しようとする心をもつ。心（心の書き）

各学年の指導の重点

1 正しい生活習慣を身に付け、安全で調和のある生活を送ること

2 礼儀の大切さを理解し、時と場合に応じて適切に行動すること

3 集団の意義についての理解を深め、協力し合って集団生活の向上に努めること

4 かけがえのない自らの生命を尊重すること

復興教育年間指導計画 第1学年

※色つきは各教科、道徳との関わり

月	活動内容	学習のねらい	道徳	社会	自然	文化
4	避難訓練 田老を語り伝える会から学ぶ 震災講話 (震災資料室見学含む) わかめの芯取り体験	地震・津波発生時の避難経路や避難方法を確認する。 先輩の発表を聞き、地元の教訓を伝えることの意味について考える。 震災の記録や講話から震災時の学校や町の様子、命を守ることの大切さや教訓、人との関わりについて学ぶ。 田老町漁港での体験活動を通じて、地域の製品の良さを知る。	○	○	○	○
5	いのち「津波体験作文集」 わかめの芯取り体験	当時の中学生の作文を読み、当時の状況、心情にせまる。 田老町漁港での体験活動を通じて、地域の製品の良さを知る。また、震災からの復興について学ぶ。	○	○	○	○
8	道徳 9「ふるさとのために」 「郷土に伝える教え」 資源回収 スクールカウンセラー講話	ふるさとのために自分は何ができるのか考える。また、「津波でんでんこ」の教えについて理解を深める。 地域のために自分達ができることについて考える。 ストレスを感じた時の対処法、ソーシャルスキルについて学ぶ。	○	○	○	○
9	副読本10「心の授業」 生徒会企画劇連演教材 副読本「真峰わかめ復活物語」 「生徒会企画劇 田老」等	様々なストレスから、どのように健康を守つたらいいのか知る。 生徒会企画劇の内容等を通して、当時の中学生の思いや後世に残したいものについて考える。	○	○	○	○

連動

### (2) 重点内容項目にかかわる教育活動の職員間での共有（毎月の職員会議）

各月の教育活動の重点を全職員で共有することを目的に、研究主任（復興教育担当兼務）と道徳教育推進教師が連携して、月ごとの復興教育計画を作成しています。

この取組によって、先生方に次のような変容が見られるようになってきました。

- 各教育活動と道徳教育との関連を意識できるようになった。
- 「地域に対する認識を深める」や「自分ができることは何かを考える」のようにねらいを焦点化することで、活動を通して目指す生徒の姿を明確にもちながら指導することができるようになった。

【C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】

ア 田老地域の人と海との関わり（産業、歴史、災害）に対する認識を深めている。

イ 田老地域のために自分ができていることは何かを考えている。

ウ 田老地域の発展のために自分が寄与しようとする意識を高めている。

	1 学年	2 学年	3 学年
学 び	○7/ 道徳 9「ふるさとのために」 「郷土に伝える教え」 道徳の内容項目 担任設定 ねらい ふるさとのために自分は何ができるのか考える。また、「津波でんでんこ」の教えについて理解を深める。		○7/11 道徳 8「郷土に息づく心」にふれて 【C16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】 ねらい 郷土の人々や土地を愛し、誇りを持って大切にしている「私」の姿に共感することで、郷土の自然や文化に愛着を持ち、先人に対する尊敬や感謝の念を深めるとともに、自らもその発展に努めようとする心構えを育てる。 C16【できることを考えている】
伝		○7/5 学年交流「田老を語り伝える会」 C16【できることを考えている】 ねらい 八幡平市立西根第一中学校との交流を通して、自分の生き方、地域との関わりについて考える。	

## 取組2

## 重点内容項目の授業実践、授業研究会の実施

### 学校独自資料の活用

1年 教材名 令和4年度一中祭生徒会企画劇「行先～繋いでいく想い～」

本授業では、令和4年度田老第一中学校文化祭の生徒会企画劇の脚本と映像を教材として活用しました。生徒会執行部が震災当時の中学生にインタビューを行い、それを基に脚本を作成し創り上げた劇です。避難所で手伝いをしたり、線路を往復して支援物資を運んだりと奮闘する当時の中学生の姿や、震災から11年が経過した今、後輩に託したい思いや願いが描かれています。当時の中学生の記憶や生き方に触れることで、進んで田老のことを学び、伝えていこうとする心情を育てることをねらいとしました。



### 問題解決的な学習

主題名 使命を果たせる田老一中生になるには？

当時の中学生の思いを未来へ繋いでいくために、震災の記憶がない自分たちが大切にしなければいけないことは何かを考えました。

T 当時の中学生が大人になった今、インタビューを引き受けてくれたのはなぜだろう？

C1 思い出すのは辛いけど、当時のことを伝えることで、いざという時に動けるように。

C2 震災の教訓を、受け継ぎ、伝えてほしい。

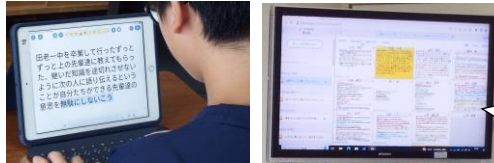


T 震災の記憶がない自分たちが田老のためにできることはどのようなことだろう？

【中心発問】

C3 震災当時、田老で何が起きたかよく知ることが今の自分たちに必要なこと。震災についてちゃんと調べたり、経験した人の話を聞いたりして、田老のことを知ることを大切にしていきたい。

### ICT 機器の活用



多面的・多角的な見方へと発展させるため、個人の考えを可視化し、学級全体で共有しています。

## 取組3

## 地域や関連団体と連携した、重点内容項目にかかわる体験活動の充実

田老地区は養殖業が盛んであり、特に「真崎わかめ」は地域の特産品として有名です。そこで、地元漁協の協力を得ながら、総合的な学習の時間に、養殖体験に取り組んでいます。

【2学年】わかめの種苗生育体験（関連内容項目 D19 生命の尊さ）

11月～ 「わかめの種苗の世話」

水温、水質の管理。一日おきに水を入れ替える。

12月中旬 「わかめの沖出し」

育てた種苗を養殖棚に移動する。

【3学年】わかめの加工体験（関連内容項目 C13 勤労）

4月中旬 「わかめ刈り取り・ボイル」

わかめを養殖棚から刈り取り、ボイルを行う。



### ○生徒の振り返りから

- ・自分たちが育てたわかめが大きく成長していたことに感動した。
- ・しっぽを切るなどの作業を1つ1つ人の手でやるのが大変だった。これからはわかめをもっと味わって食べたい。
- ・作業中は足腰を痛めて大変だったが、やりがいを感じた。

## Ⅱ 重点を置く道徳的価値を共有し、 意図的、計画的に全教職員で進める道徳教育の実際 3 花巻市立花巻北中学校

# 人権を尊重する態度を育成する道徳教育の推進

### 推進のためのポイント

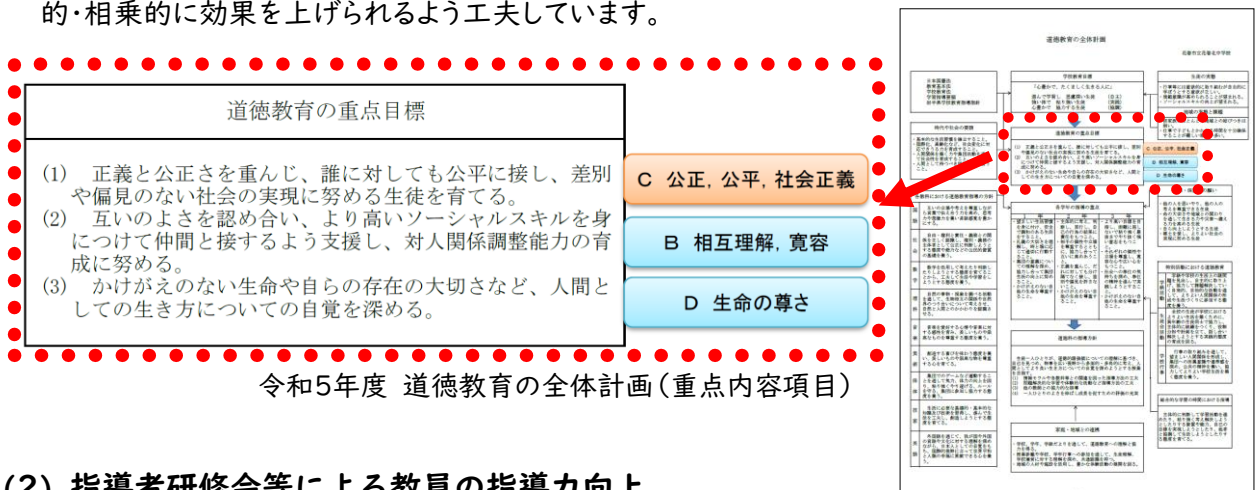
#### 研究主題 人権が尊重される「参加型・協力型・体験型」の教育活動の展開 ～心のユニバーサルデザインと人権感覚の育成の工夫～

花巻北中学校では、人権教育を学校経営の重点に掲げています。そこで、「公正、公平、社会正義」等を重点内容項目として、授業実践や学校全体での取組を通して道徳教育を推進しています。

### 取組Ⅰ 人権教育との関連を図った道徳教育の推進

#### (1) 道徳教育と人権教育とを関連付けた全体計画の見直し

本校では、「人権教育の推進」を学校経営の重点に掲げています。そこで、人権教育と関連が深い内容項目を道徳教育の重点内容項目として設定し、人権教育の活動と道徳教育の取組とが、有機的・相乗的に効果を上げられるよう工夫しています。



#### (2) 指導者研修会等による教員の指導力向上

生徒に関わる教師自身が人権について学ぶことができるよう、弁護士を講師とした講演会や研修会を実施するなど、教職員の人権感覚と指導力の向上に努めています。研修を通して養った人権感覚は、道徳科の授業や生徒理解に大いに生かされています。



生徒に関わる“私たち自身”が・・・

#### 1 人権について教師自身が学ぶ

- (1) 5/31「人権講演会（子どもの権利）」 講師；弁護士 畠山将樹 氏
- (2) 8/10「教職員研修（人権侵害と法）」 講師；弁護士 村上 力 氏

#### 2 教師自身の日常的な言動を振り返る

多様性・包摂性のある社会の実現を目指す中、「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」ことを過度に要求していないか。「画一的・同調主義的」で生徒が同調圧力を感じていないか。教師の言動等が大きな影響を与えることを自覚し、言動を振り返る必要。

#### 3 人権を意識して教師が実践する

- (1) 「一斉授業」→主役は生徒；「参加型・課題解決型の授業形態」（教師の工夫として）  
→生徒を受容；「個々を大切にし、共感的な態度」（教師の姿勢として）
- (2) 学級・学年活動、生徒会活動

人権を尊重する雰囲気を用意的に醸成し、「心のユニバーサルデザイン・人権感覚」を育成

6月職員会議資料より

教員の指導力向上の面から  
組織的に人権教育を展開

## 取組2

# 人権を扱う道徳科の授業の実践

- 1 主題名 正義と公正を重んじる〔C-(13) 公正、公平、社会正義〕
- 2 教材名 「卒業文集最後の二行」(出典 学研「新・中学生の道徳 明日への扉 3年」)
- 3 授業の概要 (下線部は、主な人権教育上の配慮)

展開前段では、けなされたT子さんの痛みや心情を共感的に受容し、想像することで、いじめの残酷さと非情さを感じ取ることができるようにする。さらに中心発問では、人間の心の中にある弱さや醜さがあることを押さえたうえで、差別や偏見のない社会を築くにはどうしたらよいか考え、人間としての生き方についての考えを深めることができるようにする。

### 4 生徒の振り返り

- ◇ みんなと違うことを「変だ」と思って差別やいじめが起こってしまうと思うので、違いを認め合える世の中になってほしい。そのためにも差別や偏見をなくして平等に接していきたい。
- ◇ 誰かひとりの発言に対して、よく考えずにノリで同調してしまう周りの人がいるから差別やいじめが起こる。見た目で判断せずに相手の気持ちを考えて、自分の考えをしっかりとつことが大切だと思います。
- ◇ 相手のことをよく知らないのに、自分の尺度ですべて決めてしまうから差別やいじめがなくなる。自分の価値観で測らないで相手の育ってきた環境などを理解し、相手を認めて「その人」として関わることを大切にしていきたいです。



## 取組3

# 重点内容項目に係る取組～生徒会活動～

本校では、道徳科の授業が道徳教育の要としての役割を果たしながら、重点内容項目と生徒会活動とを関わらせ、全校生徒の主体性を尊重した“他者に思いを馳せる人道支援・平和祈念・福祉活動”に取り組んでいます。

- 4月：生徒総会「ウクライナ人道支援」の決議
- 5月：「ウクライナ人道支援」募金活動
- 6月：「いじめ・いやがらせに関わる7つの提言」の実態調査、全校生徒への問題提起
- 7月：平和祈念「千羽鶴」の全校制作 → 8月：花巻市平和祈念式典にて奉呈
- 10月：「ウクライナ人道支援」募金活動
- 12月：ちょボラ活動(日本赤十字社、岩手県ユニセフ協会の街頭募金に参加)

人道支援



自分にできることを

地域の方と一緒に



平和祈念

# Ⅲ 道徳科の授業の実際 Ⅰ 紫波町立紫波東小学校

## ICT を効果的に活用した道徳科の授業

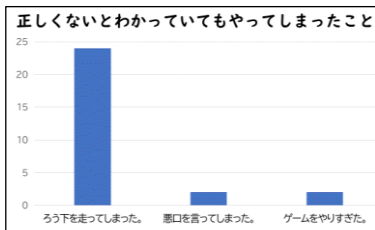
### 第3学年

- 主題名 「正しいことは、はっきり言おう」 A (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
- 教材名 「心にひびくかねの音」(学研「新・みんなのどうとく3」)
- ねらい 間違っていると感じる物事を見過ごさず、よいと思うことを進んで行うための判断力を育てる。
- 本時の展開

	◇主な学習活動と発問 ■予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. みんなと一緒に、楽しかった経験や、困った経験について、アンケートをもとに共有する。 2. 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             どんなときも、みんなといっしょがよいのでしょうか。           </div>	・事前アンケートをもとに本時についての方向付けを図る。 <b>☆ICT活用</b> <span style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">ポイント1</span> (アンケート結果の提示)
展開	3. 教材をもとに話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             アルベルトはどんな気持ちでゲオルグたちと森に出かけたのでしょうか。              ■いやだな。 ■行きたくない。 ■断れない。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             アルベルトの行動をどう考えますか。              ≪断るべき≫ ≪断れない気持ちもわかる≫              ■つぐみがかわいそう。 ■みんなと同じでいたい。              ■命を大切にしないと ■1回だけなら。              いけない。 ■わざと外せばいいか。              ■友達でもちゃんと言うべき。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             大声を上げてつぐみを追いはらうことができたのはなぜでしょう。              ■生き物は大切にしないと。              ■だめなことはしちやいけない。              ■友達でもやっぱりよくない。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             怒っているゲオルグを見ながらさっさとその場を去ったアルベルトは今どんな気持ちでしょう。              ■怒っているけどこれでよかった。              ■つぐみを逃がしてよかった。              ■友達でもだめと言えてよかった。           </div>	・小鳥の歌声が好きだが、ぼっちゃんと言われることに嫌悪感をもっている主人公の立場をしっかりと理解させる。 <b>☆ICT活用</b> <span style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">ポイント2</span> (立場を視覚化させる) ・撃つのはよくないと思う一方で、他の子と同じでいたいとも思う主人公の葛藤をそれぞれの立場で考えさせ、多様な考えに気付かせる。 ・役割演技の活動で、一人一人が想像できるように、教師が場面の状況を演じながら範読する。 ・二項対立の場面に立ち返り、それぞれどう考えるかを共有していく。
終末	4. 自己を見つめ自己の生き方について考えを深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             もし間違っていると思うことに誘われたときどうしますか。              ■友達だけどころちゃんと自分の気持ちを伝えたい。              ■だめだよと言いたい。              ■正しいことは自信をもって行うことがいい。           </div> 5. 本時の学習を振り返る。	・道徳的価値の深化を図るために、学習したことを振り返らせる。

## ポイント1

### 導入場面において、アンケート結果を可視化



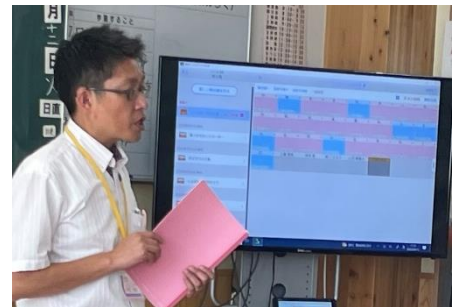
日常生活の傾向から問題意識をもたせる導入を行う場合、事前にアンケートをとり、その結果をグラフにして提示することが有効です。その場合、1人1台端末のアンケート機能などを活用して集計し、その結果を全体の画面で共有する工夫が考えられます。



## ポイント2

### 学習支援ツールで一人一人の考えを提出し、全体で共有

主人公の行動について考える場面等において1人1台端末の活用が考えられます。本実践では、学習支援ツールで「断るべき」または「断れない気持ちもわかる」を選択し、提出されたものを全体で共有しました。それをもとに、全体的な傾向を踏まえながら、「なぜそう考えたのか」「友達の考えをどう思うか」について交流し、心情の理解を深めました。



## ポイント3

### 信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く視点から1人1台端末を活用

道徳科の指導は、よりよい生き方について児童生徒相互が語り合うなど学級での温かな心の交流があって効果を発揮します。基盤となる教師と児童生徒との信頼関係や児童生徒相互の温かい人間関係は、発達支持的生徒指導の充実を図ることで豊かに育まれていきます。そのために、全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場である授業において、1人1台端末のよさを生かし、生徒指導の実践上のポイントである下記の4つの視点を意識することが大切です。



#### (1) 自己存在感の感受を促進する授業づくり

自己存在感の感受を促進しながら、個別最適な学びを実現し、どの児童生徒も分かる授業を行う。

自分の考えが名前とともに表示されることによって、自己存在感の感受につながっていきます。また、「〇〇さんの考えに賛成です」などの意見が出やすくなります。

1人1台端末の活用により、選択に悩んでいる子どもを把握しやすいので、適切な支援を行うことができます。個を大切にすることが、自己存在感の感受につながります。

#### (2) 共感的な人間関係を育成する授業

互いに認め合い・励まし合い・支え合える共感的な人間関係を育成する授業を行う。

一人一人の考えを表示した画面を活用しながら発言をつなげていくことで、児童生徒同士がお互いに関心を抱き合う授業となり、それが共感的な人間関係を育成することにつながります。



#### (3) 自己決定の場を提供する授業づくり

児童生徒が授業場面で自らの意見を述べたり、自ら考え、選択、決定したりできるよう、自己決定の場を提供する授業づくりを行う。

1人1台端末による意思表示が自己決定の場となります。今回は発達段階を考慮し、「色」での意思表示とすることで、考えを表現しやすくしています。



#### (4) 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

児童生徒の個性が尊重され、一人一人が安全・安心に学べるように、学級集団が児童生徒の心の居場所になるよう努める。

1人1台端末で発表した考えが尊重されることで、学級集団が安全かつ安心して学習できる「心の居場所」となります。日頃から、間違いや失敗なども受容される温かい雰囲気づくりが大切です。

# Ⅲ 道徳科の授業の実際 2 大船渡市立大船渡北小学校

## 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導

### 第6学年



- 主題名 「つながる命」D (17) 生命の尊さ
- 教材名 「その思いを受けついで」(学研「新・みんなのどうとく6」)
- ねらい 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する心情を高める。
- 本時の展開

段階	学習活動と基本発問	予想される児童の反応	指導上の意図・留意点
つかむ 5分	<b>1 教材への関心を高める。</b> ○これは、「のし袋」と言います。もらったことがありますか。	・お年玉でお金をもらった。 ・結婚式のお祝いのときに見たことある。	・のし袋は、お祝いなどの特別な時に使うものだというを押さえ、ぴんとはられたのし袋の実物を見せる。 <b>ポイント3</b>
ふかめる 30分	<b>2 教材を基に、話し合う。</b> ○大地は毎日どんな思いで、じいちゃんのところに通い続けたのでしょうか。	・早く良くなって欲しい。元気づけたい。 ・じいちゃんと一緒にいたい。 ・精一杯のことをしたい。	・自分ができることを一生懸命にしたい、祖父と過ごす時間を大切にしたいと思う大地の心情を押さえる。
	○「瞬時に察した」のに、「きっとよくなるよ。」と大地が言ったのはどうしてでしょう。	・死んでほしくない。 ・生きていてほしい。 ・ぼくの声を聞くと良くなるかもしれない。	・死が近づく祖父を励ます大地の気持ちを通して、いかに祖父が大好きかという心情に触れさせる。 <b>ポイント2</b>
	○しわくちやの「のし袋」には、じいちゃんのどんな思いが込められているのだろう。	・お見舞いに来てくれてありがとう。じいちゃんも生きるんだよ。 ・誕生日を祝ってあげたかったけどごめんよ。 ・ずっと大地のことを見守っているよ。	・のし袋がしわくちやなことや、枕の下に入れていた意味を考えるを通して、死期を察していた祖父の大地に対する深い愛情に気付かせる。 <b>ポイント3</b>
◎その強い思いを受けついで、大地はこれからどのように生きていこう。	・じいちゃんも一生懸命生きていく。 ・じいちゃんを忘れないで生きていく。 ・苦しいとき、きっとじいちゃんが見てくれるから、頑張って生きていく。 ・お母さんからつながっている命を大切にしたい。 ・自分や周りの人を大切にしていきたい。	・教材の題名に戻って、祖父の強い思いとは、どのように生きることなのか考え、生命の尊さを深めさせる。★ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の考えを道徳ノートにまとめ、グループで話し合い、他者理解させたい。その後、さらに深め合うために全体交流を行う。</div>	
みつめる 5分	<b>3 道徳的価値の内面的自覚を深める。</b> ○おうちの人からの手紙を読んで、振り返りを書きましょう。	・命はつながっているんだと思った。 ・生きていることを喜んでいる人がいるんだと思ったらうれしかった。	・家族に手紙を依頼する際に、本教材文と「生命の尊さ」を意図するものであることを説明し、理解を得ておく。★ ・一人ひとりがじっくりと手紙を読む時間を設ける。
ひろげる 5分	<b>4 今後の実践につなぐ。</b> ・児童の振り返りを交流する。 ・ノートに書きまとめる。	・自分の命も、みんなの命も、受け継がれてきた大切な命だと思った。	・友達の振り返りを聞くことで、より理解を深めさせる。



(2) 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、**計画的・発展的な指導**を行うこと。特に(中略)取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。

小・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」第3の2

## ポイント1

考える機会を得られにくい道徳的価値を補う

補充



「生命の尊さ」は、実は日常生活や学校の諸活動、各教科等で向き合う機会が得られにくく、生命が大切なものであることは理解できてはいるものの、「なぜ生命が大切なのか」について考えを深めるまでには至らないことがあります。当たり前で見過ごしがちであるがゆえに、様々な側面から「生命の尊さ」について考えを深めていく必要があると考えました。

## ポイント2

児童の実態等を踏まえ一層考えを深める

深化

祖父を慕う大地の心情を丁寧に掘り下げることにより、自分の命は大切な人から受け継いだ**限りあるたった一つの命**であり、だからこそ前を向いて**精一杯生きることの尊さ**に気付かせ、自他の生命を尊重しようとする**心情を高めたい**と考えます。



## ポイント3

児童が新たな感じ方や考え方を生み出す

統合



導入では、「のし袋」はどんな時に使われるものかを押さえ、あえて「**ピン**」とした**実物**を提示しています。これは、のし袋が「特別な袋」であることや、それが「しわくちや」になるほど何度も取り出した様子が想像できることから、**自らの死期が迫る病床の中でも大切な孫のことを思い続けた祖父の深い愛情や強い思い**について考えを深めさせるための「**布石**」としています。



祖父の孫に対する深い愛情は、かけがえのない「**生命を尊ぶ心**」に他なりません。限りある命を**最期まで懸命に生きた祖父の姿**と「**強い思い**」は、この「のし袋」を通して孫へと受け継がれていきます。このとき、祖父と孫との心の交流に終始してしまうと、『B 感謝』や『C 家族愛、家庭生活の充実』といった**関連する内容項目にとどまってしまう**場合があります。そこで、「両親や家族からの手紙を読む」ことを設定し、主とする内容項目の『**D 生命の尊さ**』に**迫っていく**ことにしました。



## まとめ

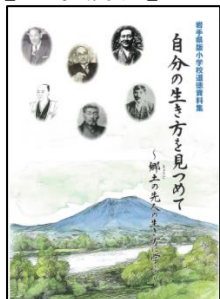
道徳教育の要としての計画的・発展的な指導

この授業実践の児童は、東日本大震災津波の年に生まれた子どもたちです。家族が大きな悲しみと失望の中でも愛情をもって育ててくれたこと、様々なつながりや支え合いの中で**今日の自分がある**ことを改めて感じます。また、この手紙を読みながら子どもたちは、授業のひと月前に行われた**学習発表会**での劇「**かわいそうなぞう**」の取組も思い出していたことでしょう。そうして4か月後の**卒業式**では、どんな思いを伝えたいのか、どのような合唱曲を選び、どんな練習をしていくのかといった、**児童の主体的な取組へと発展していくことまでを見通し、計画的・意図的・効果的に**本時の道徳授業が位置付けられています。

# IV 道徳科で活用できる読み物資料

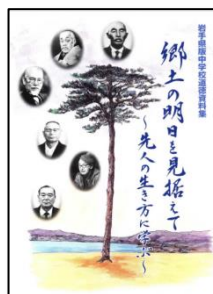
## 1 岩手県版道徳資料集

【小学校版】



自分の生き方を見つめて  
~郷土の先人に学ぶ~

【中学校版】



郷土の明日を見据えて  
~先人の生き方に学ぶ~



## 2 文部科学省作成教材

### (1) 読み物資料集



### (2) わたしたちの道徳



## 3 いわたの復興教育副読本

【小学校・低学年用】



【小学校・高学年用】



【中学校用】

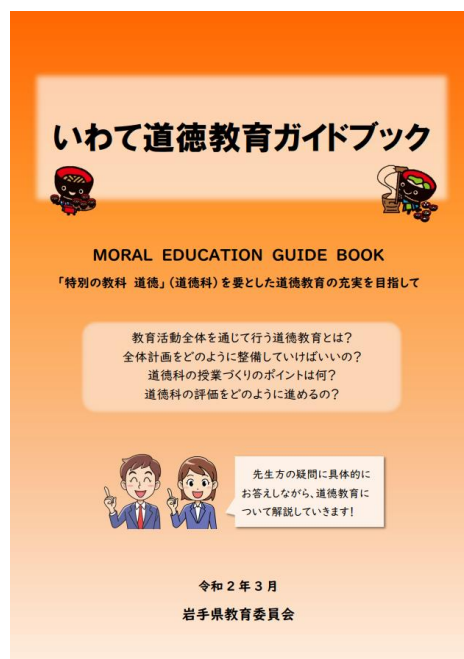


# 編集委員

盛岡教育事務所	主任指導主事	上田 淳 悟
中部教育事務所	主任指導主事	豊川 浩 子
県南教育事務所	指導主事	川村 晃 博
沿岸南部教育事務所	指導主事	馬場 志 保
宮古教育事務所	指導主事	阿部 伸 也
県北教育事務所	指導主事	菊地 亜矢子
学校教育室	指導主事	太田 和 成



「いわて道徳教育ガイドブック」と  
あわせて御活用ください



## いわて道徳教育ガイドブック 増補版

令和6年3月発行

岩手県教育委員会事務局学校教育室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

※岩手県教育委員会ホームページにも掲載しています。



# いわて道徳教育ガイドブック 増補版

MORAL EDUCATION GUIDE BOOK

「特別の教科 道徳」(道徳科)を要とした道徳教育の充実を目指して

